



母乳哺育 Breastfeeding

ICNの所信：

国際看護師協会（ICN）は、乳児は、生後6か月間は母乳哺育のみとし、その後、2歳か2歳過ぎまでは、適切な補助食品をとりながら母乳を継続するという世界保健機関の提言を支持する¹。

ICNは、母子保健サービスを提供する全ての施設が母乳哺育を支援する中核となるように、「赤ちゃんにやさしい運動（the Baby Friendly Initiative：BHI）」の採用を推進する取り組みを支持する²。

ICNは、HIV陽性の母親の母乳哺育に関し、UNICEF/UNAIDS/UNFPA/WHOによる2010年のガイドラインを支持する。すなわち、国または地方の保健医療当局は、保健医療サービスがHIVに感染した母親に、以下のいずれかについて助言及び支援することを推奨する：

- 母乳哺育を行い、抗レトロウイルス薬（ARV）を用いた介入を受ける；または
- 乳児がHIVに感染せずに生存する可能性が最も高くなるよう、母乳哺育を避ける³。

保健当局者は、この提言をする際に、社会経済・文化的背景、保健医療サービスの利用可能性と質や、妊婦のHIV罹患率といった現地の疫学、母子の栄養失調及び乳幼児死亡率の主要な要因について検討する必要がある⁴。

さらにICNは、国際労働機関（ILO）の母性保護条約（第183号）を支持する。母乳哺育の場合、毎日の有給休憩と労働時間の短縮ができること及び、職場または職場近くにある授乳や母乳を保管するための衛生的な施設へのアクセスがあることは、インフォーマル・セクターで働く女性を含むすべての女性労働者の権利である、という点にも賛同する⁵。

背景

母乳で育てられている子どもは、母乳で育てられていない子どもより、生後数カ月における生存の可能性が少なくとも6倍高い。母乳哺育の乳児は、母乳以外の飲み物や食物を与えられている乳児よりも病気が少なく、栄養状態も良好である。あらゆる予防的介入において、母乳哺育は子どもの生存に最も潜在的な影響力を有しており、それは発展途上世界の5歳未満の小児の140万人の死亡を防ぐ可能性がある⁶。

ARVsを受けていないHIVと共に生きる母親が母乳哺育をする場合、子どもにHIVが感染する確率が5-20%増加する可能性があるが、ARVsを受けている場合は、感染のリスクが1-2%に低減している。母乳哺育ではない乳幼児が、生後6ヶ月間に下痢や呼吸器感染等の感染症によって死亡する可能性は、母乳哺育のみの乳幼児の14倍以上となる⁷。

母乳哺育は、下痢、肺炎、耳の感染症、インフルエンザ、髄膜炎及び尿路感染症といった急性感染症のリスクもまた低減し、1 型糖尿病、潰瘍性大腸炎及びクローン病等の将来の慢性状況も防ぐ。乳児期の母乳哺育は、平均血圧と血清総コレステロールを下げ、思春期・成人期の 2 型糖尿病、太りすぎ及び肥満の罹患率の低さと関連する⁸。

母乳哺育は、女性の生殖能力の回復を遅らせ、分娩後出血、閉経前乳がん及び卵巣がんのリスクを低減する⁹。

さらに、母乳哺育はほとんどの家族にとって入手可能であるが、母乳代用品の安全な準備と使用はそうではないことがある。両親が、十分な量の適切な母乳代用品を購入できず、及び/または、粉乳を溶かす安全な水へのアクセスがない場合、特殊調整乳または動物の乳といった母乳代用品の使用は乳児に重大な脅威をもたらす。

さらに、ここ数十年に女性の労働市場へ参加が高まっていることより、今日の女性は人生のかなりの期間を、有給雇用されて過ごしている。各国は、雇用者によって母乳哺育が支援される場合、乳児への母乳哺育及び母親の健康に及ぼす有益性は、全国的な職場レベルでの経済的利益と一致するとみなすようになってきている。

2004 年採択

2013 年見直し・改訂

関連 ICN 所信声明：

- 母乳代用品の配布と利用
- 女性の健康
- 児童の権利

2013年（公・社）日本看護協会訳

* 文書中の「看護師」とは、原文では nurse(s)であり、訳文では表記の煩雑さを避けるために「看護師」という訳語を当てるが、免許を有する看護職すべてを含むものとする。

* ICN 所信声明の著作権は、国際看護師協会(ICN)にあり、ICN の許可のもとに、(公・社) 日本看護協会が日本語訳を作成しました。許可の無い商業目的での使用を禁止します。

-
- ¹ World Health Organization, Nutrition: Exclusive Breastfeeding, Accessed at http://www.who.int/nutrition/topics/exclusive_breastfeeding/en/index.html in July 2013.
 - ² United Nations Children's Fund, The Baby-Friendly Hospital Initiative, Accessed at <http://www.unicef.org.uk/BabyFriendly/Health-Professionals/Going-Baby-Friendly/Maternity/Ten-Steps-to-Successful-Breastfeeding/> in July 2013.
 - ³ United Nations Children's Fund(UNICEF), Joint United Nations Programme on HIV/AIDS(UNAIDS), United Nations Population Fund(UNFPA), World Health Organization(WHO), Guidelines on HIV and Infant Feeding 2010. WHO, Geneva2010.
 - ⁴ United Nations Children's Fund(UNICEF), Joint United Nations Programme on HIV/AIDS(UNAIDS), United Nations Population Fund(UNFPA), World Health Organization(WHO), Guidelines on HIV and Infant Feeding 2010. WHO, Geneva2010. HIV/AIDS(UNAIDS),
 - ⁵ International Labour Organization, Convention 183. Convention Concerning The Revision Of The Maternity Protection Convention (Revised), 1952, Adopted by the Conference at its Eighty-Eighth Session, Geneva, 2000.
 - ⁶ United Nations Children's Fund, Nutrition: Breastfeeding, Accessed at www.unicef.org/nutrition/index_24824.html in July 2013.
 - ⁷ United Nations Children's Fund, Nutrition: HIV and Infant Feeding, Accessed at www.unicef.org/nutrition/index_24827.html in July 2013.
 - ⁸ World Health Organization/United Nations Children's Fund(2009). Acceptable medical reasons for use of breast-milk substitutes. WHO, Geneva
 - ⁹ World Health Organization/United Nations Children's Fund(2009). Acceptable medical reasons for use of breast-milk substitutes. WHO, Geneva